

ケアとは何か？

岩田 誠

(東京女子医科大学名誉教授 メディカルクリニック柿の木坂院長)

ケアという言葉は、緩和ケアとか認知症ケアといった、様々な病態に対処するという意味や、こころのケアなどのように、いたわりを持って接するという意味で使われていますが、その語源を辿ると、“心配する”という意味の古英語 caru に由来することが判ります。心配すべき対象には、現在目の前に見えている現象のみでなく、将来起こるかもしれないことも含まれています。Nightingale は、“Notes on Nursing”の中で、病気の予防を考えたり、病気から出来るだけスムーズに回復するように配慮していくことが Nursing であると述べていますが、これはケアという言葉の本来の意味と見事に重なっています。このような事から考えますと、今日の医療におけるケアというものは、病気に立ち向かう人が、スムーズに治療を受け、順調に回復するために配慮するというだけでなく、その闘病の中で受けねばならない様々な心理的ストレスに対して予め十分な対策を考えておくことも含まれていると言えるでしょう。そのような意味でのケアの中で重要なことのひとつとして、病気に立ち向かっている人の生活を、いかにして守るかということがあると思います。特に、重篤な病気による入院治療というような状態では、えてして患者さんの病気のみに関心が集まってしまい、患者さんの日常生活は全く顧みられなくなってしまいます。病室という特殊な環境は、患者さんの日常生活を奪ってしまうことになるということに、気付かなければなりません。生命と生活、この二つは英語では “life”、フランス語では “vie”、ドイツ語では “Leben” と、一つの語で表わされますが、私たちは二つ目の漢字を“命”にするか“活”にするかで、はっきりと区別して考えることが出来ます。そのようなことを考えますと、患者さんの生活が奪われていくことがないように“心配する”のは、ケアの役割だと思います。
